

でんとうひつひがしちゅうがっこうこうかいしゅうねん 伝統引き継ぐ東中学校 開校四十周年



幸手市立東中学校新聞



幸手市立東中学校は、昭和53年に開校し、本年創立四十周年を迎えました。開校当時の中学校区編成により権現堂川地区・吉田地区・八代地区が統合し、東中学校が新設され、これまでに378名の卒業生を輩出しました。3地区の歴史と伝統を受け継いで四十周年。開校当時の様子から現代に至るまでを振り返りながら、東中学校についてご紹介致します。

東中知られざる真実

東中には、おそろくみんなも知らないような事たくさんあります。それらを紹介していきます。

校章・校歌



まず一つ目は、校章。校歌の真実です。校章は昭和53年7月14日に制定されました。デザインは生徒と先生で考えられ、校・人・本をそれぞれ3つずつ使用しています。それは、権現堂川小学校、八代小学校、吉田小学校の三つの小学校を意味しています。そして校は、幸手を代表する花で、幸手市全体を包む意味で使用されました。校歌より先に校章が作られたのです。

裏山

二つ目は、武道館裏にある裏山です。この山には名前があります。その名も「築山」です。これは20周年目の記念事業としてつくられました。体力向上のために作られた山だったので

温室

三つ目は、中庭にある温室です。この温室は、開校当初からあったもので、昔は技術の授業などで菊を育てる際に使用したものであったのです。

中庭の池

四つ目は、中庭にある池です。この池には現在メダカなどが泳いでいます。この池は、周りを石で囲まれています。この石、実は、吉田中、八代中から運ばれてきたものであったのです。

石碑



五つ目は、校舎前の石碑の石碑です。これは、初代校長・柳田恭三先生が異動してきた際に、越谷市の学校の方から送られました。どんな障害も物ともしない積極的な精神を表す言葉です。

中庭

六つ目は、なんと中庭にバスケットコートがあったという事です。しかし、現在は緑が生い茂る場所になっています。

国旗掲揚台



七つ目は、国旗を掲揚する所です。ここは現在、武道館横にありますが昔は屋上にあったのです。

気力・礼節

八つ目は、体育館ステージ横にある「気力」「礼節」です。これは意味があり、気力は何か集中すること。礼節には、礼儀を正すこと。敬語を使う、という意味です。これらを生徒に実行してほしいという意味であるのです。

調べたのはほんの一部で、まだまだ知らない事がたくさんあるかもしれません。

(小澤茉莉・船川侑那)

『真善美』

人として理想の精神と言える。学問・道徳・芸術の追求の目標であり、社会も求めている。真……まこと 真心、真実、真理、真龍 善……よ い 善行、善心、善意、善良 美……うつくしい 美德、美実、美賀、美行 この言葉のもつ意味を「建学の精神」として、生徒諸君の心の支えとなり、健康でより良い発展する姿を願い、昭和56年に建立する。

(初代校長 柳田恭三)

東中のジャージの歴史

私達の父・母や祖父母の時代にさかのぼって、卒業アルバムを見てみました。開校時は幸手中、八代中、吉田中、東中と4種類のジャージが校内で見られました。その後、ジャージの色が赤、青、オレンジなど学年ごとに分かれて、とてもカラフルでした。さらに東中のジャージの各々は、今と違いジャージの中心に大きく学年、組、出席番号が組み合わされた4ケタの番号が書かれていました。その大きかった名刺は、1994年に今と同じ大きさになりました。1999年に女子の体育着が、ブルマからハーフパンツに変わりました。今のジャージになったのは、2013年で来年からサッカーのマークがなくなるものの、形・色はそのまま変わっていません。このように昔の卒業アルバムを見ていくとジャージにもたくさんの歴史があることがわかりました。(小竹遥香、後上真希歩、清水菜歩)



校長挨拶

皆様 こんにちは。校長の古関正広と申します。この4月に東中学校第12代校長として着任いたしました。本校は、昭和53年に開校し、本年創立四十周年を迎えました。この間、諸先輩方は地域にしっかりとした礎を築き、中には親子三代が東中学校に関わりを持たれているご家庭もあると思います。四十年間に、多くの保護者の皆様、地域の皆様方がご支援をいただき歴史を刻むことができたことに、衷心より感謝申し上げます。生徒数は、平成2年の4211名をピークに減少し、本年は1409名、学級数も最大13学級(通常学級のみ)から、現在7学級(特別支援学級を含む)となっています。今後も減少に歯止めがかけられないことが最大の課題になっていきます。今回、東中学校新聞を発行するにあたり、全校生徒から編集委員の立候補を募りました。1年生から3年生まで10名の立候補があり、夏休み直前に第1回の編集会議を開催し、9月から原稿作成に入りました。40年目の特別な新聞にしたいという思いから、生徒が記事の内容をお答えしてまいります。



校長 古関正広

老いて学べば、即ち死して朽ちず。少年時代にしっかりと学んでおけば、壮年になってそれが役立ち、何事か為すことができる。さらに壮年でも学べば、老年になっても気力の衰えることが無く、さらに老年になっても学ぶ姿勢が続ければ、見識が高まり、より多く貢献することができ、その名を後世に残すことができる。つまり人生はいつも学ぶときであり、皆さんが東中で過ごす時がその礎となります。これからも、なお一層地域に根ざした学舎を築き、皆様方の信任にお応えしてまいります。

読売新聞・日本経済新聞・スポーツ報知
読売Kodomo新聞・読売中高生新聞・
埼玉新聞・The Japan Newsのご購読(試読)
お申込みは読売センター迄お問合せ下さい

読売新聞

NIKKEI

スポーツ報知

埼玉新聞

読売Kodomo新聞

読売中高生新聞

The Japan News

読売センター幸手グループ 株式会社高読

YC 幸手

幸手市緑台1-79-40

TEL 42-0755

YC 幸手西

幸手市西1-16-32

TEL 43-6100

YC 幸手東

幸手市幸手2072-2

TEL 42-1340

新聞読んで、



何が悪い。

未知を開こう。

読売中高生新聞

タブロイド判
オールカラー
24ページ
毎週金曜日発行
月額780円(税込)

中高生にこそ読んでほしい！
社会のことを広く深く知ることができるよう、国内外のニュースをわかりやすく解説する記事を数多く掲載します。
スポーツ、ファッションの最新情報はもちろん、英語などの学習面や将来の就職につながる知識まで、中高生に役立つ情報を満載してお届けします。

